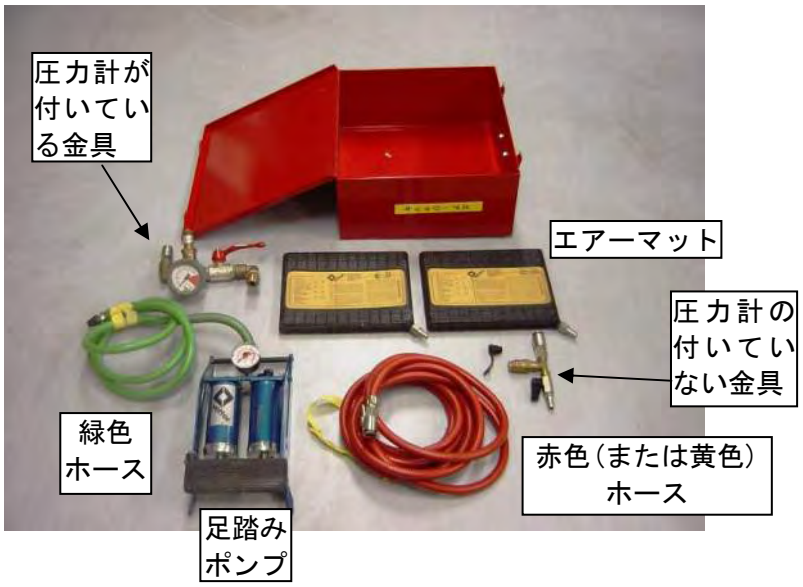
C

モノ:防災拠点資器材操作マニュアル

エアージャッキ】

【エアージャッキ】

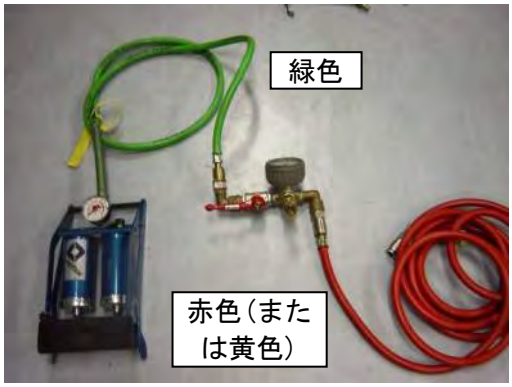
正式名称　スーパーミニマイティバッグセット
使用目的　倒壊建物の下敷きになった人を救出するために使用する。
特　　徴　１　特殊ゴム製のエアーマットに空気を注入することで**約３トンの重さの物を最大約１２ｃｍ**持ち上げることができる。（６トン用のエアーマットが備蓄されている拠点もある）
２　エアーマットを２枚まで重ねることができる。
３　普通のジャッキと違い、すき間が少なく土台の不安定な場所でも使用できる。



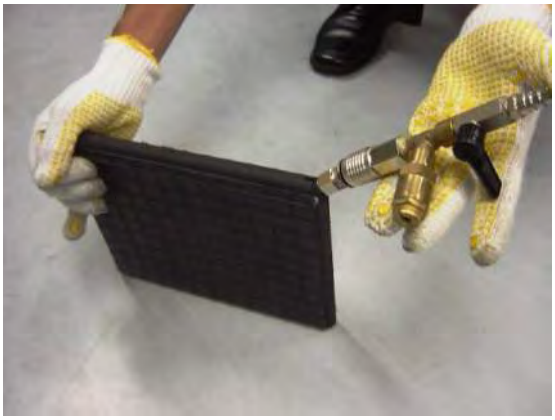
エアージャッキ操作手順

１　圧力計が付いている金具に、足踏みポンプの緑色のホースと赤色のホースをつなげる。

２　赤色のホースと圧力計の付いていない金具をつなげる。

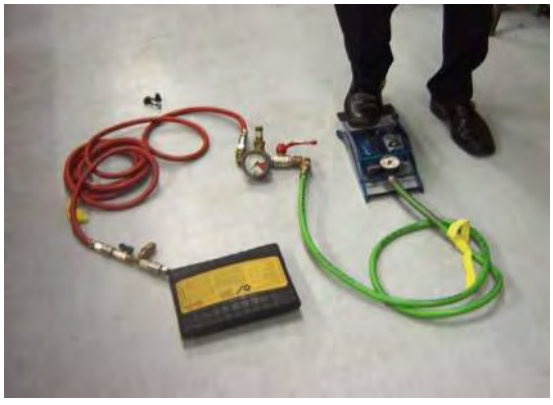


３　圧力計の付いていない金具とエアーマットをつなげる。



４　接続した２種類の金具の開閉弁を金具に水平に合わせる。

５　足踏みポンプを踏んで空気を送る。

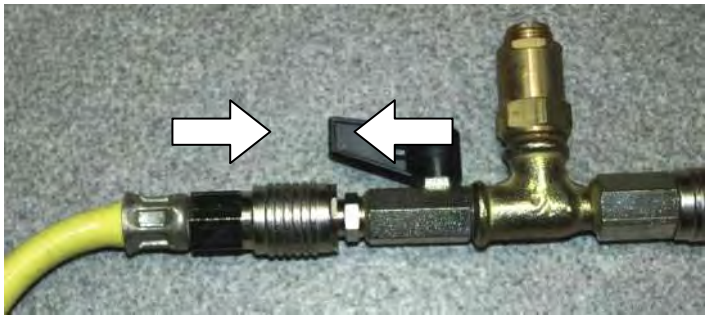


６　エアーマットを２枚使用する場合は、圧力計の付いていない金具の開閉弁を金具に垂直に合わせて、空気を止めエアーマットを外してから次のマットに赤色（または、黄色）のホースをつなげる。

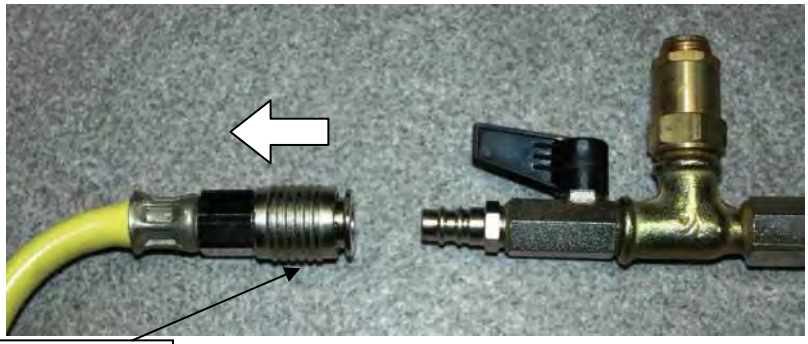
7　空気を抜く場合は、圧力計の付いていない金具の開閉弁を金具に水平に合わせるか、圧力計の付いている金具の空気排出バルブ（圧力計の上に付いている棒みたいなもの）のネジを左に回す。

接続金具のはずし方

1　ホースの接続部分を矢印の方向へ押す。



2　１の押した状態のまま上記のロックカバーを左側に移動させる。



エアージャッキ】

エアージャッキについての注意事項

１　エアーマットから空気を抜くときは、必ず空気排出バルブか開閉弁を使って空気を抜いてください。

２　エアーマット使用中は、できるだけ近寄らないでください。

３　エアーマットを重ねて使用する場合は、２枚までで使用し、下のエアーマットから膨らませてください。**絶対に３枚以上重ねて使用しないで**ください。

４　エアーマットを折り曲げて使用することはできません。

５　**周囲温度８０℃までの場所で使用してください。**

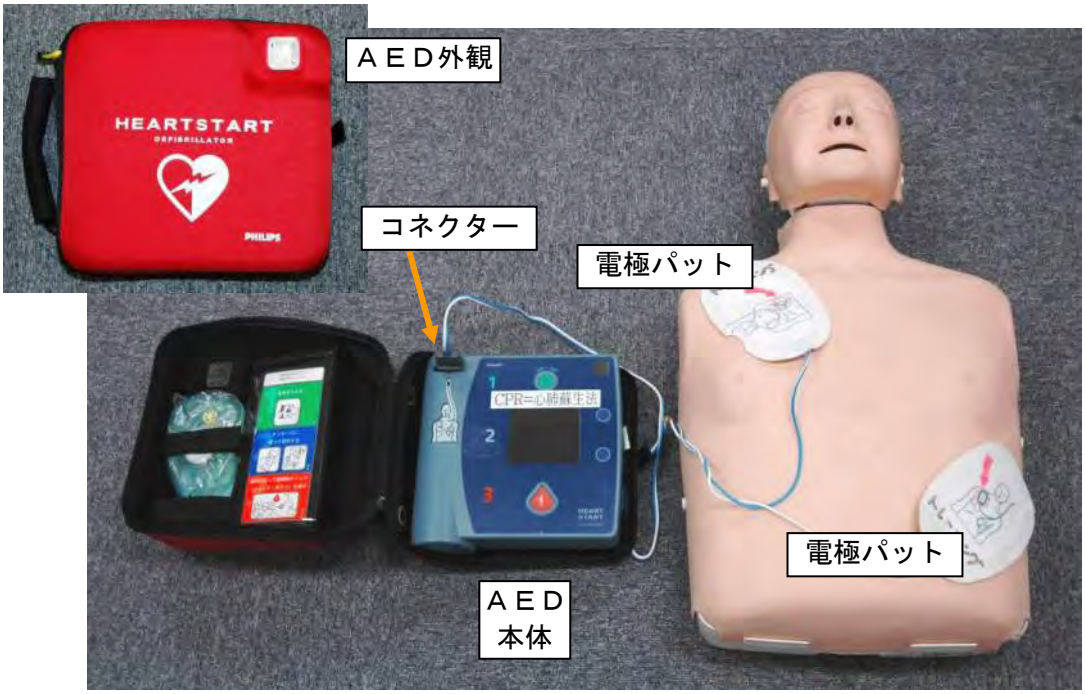
６　薬品及び特殊ガス等の影響がある場所では使用しないでください。

７　空気排出バルブ、足踏みポンプ、開閉弁には、振動等のショックを与えないでください。

2.【救護するーＡＥＤ（自動体外式除細動器)】

【ＡＥＤ（自動体外式除細動器)】

正式名称　　ＡＥＤ（自動体外式除細動器）
使用目的　　突然心臓機能が停止した方に多く見られる心臓の痙攣(けいれん)状態（心室細動）を取り除くために有効な電気ショックを与え、心臓を正常な状態に戻す。
特　　徴　　１　ＡＥＤの操作は簡単で、電源を入れると音声メッセージで操作を誘導し、ＡＥＤが電気ショックを必要と判断した場合のみ、音声指示に従ってショックボタンを押す。
２　心臓が正常に動いている人には、電気ショックを与えないようになっている。



※区内の公共施設に設置してあるＡＥＤ（自動体外式除細動器）は、右写真のようなケースに収められています。

可搬ケースは、赤色と黄色のものがあります。

ＡＥＤを用いた救命手当

１　肩をたたきながら声をかける。

２　反応がなかったら、大声で助けを求め、１１９番通報とＡＥＤ搬送を依頼する。

３　気道確保と呼吸の確認を行う。

４　普段どおりの息がなかったら、人工呼吸を２回行う。

５　人工呼吸が終わったらすぐに胸骨圧迫。

※早く・強く・絶え間なく行う。
　圧迫解除は胸がしっかり戻るまで！
※胸骨圧迫の強さや圧迫位置については C-2-4「年齢区分別にみた心肺蘇生」を参考のこと。

ＡＥＤが到着したら

６　ケースからＡＥＤを取り出し、電源スイッチを押す。

※ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。

７　音声ガイドに従い、２枚の電極パットを患者の胸に貼り、コネクターを本体に差し込む。パットの貼る位置は、本体やパットに表示してある。

※体が汗などで濡れていたらタオルで拭き取ってください。

※小児には、小児用パッドを貼ります。小児用パッドがなければ、やむを得ず成人用パッドを代用します。
（乳児に対してはＡＥＤは使用しません。）

８　電気ショックが必要かどうかを
　　ＡＥＤが判断するまで待機する。

※心電図解析中は誰も傷病者に触れ
　てはいけません。

９　**誰も傷病者に触れていないこと**
　　を確認し、除細動スイッチを押す。

以後は、ＡＥＤの音声メッセージに従います。

心肺蘇生とＡＥＤの手順は、救急隊に引継ぐか、何らかの応答や目的のある仕草（例えば、嫌がるなどの体動）が出現したり、普段どおりの息が出現するまで続けます。

●参考：年齢区分別にみた心肺蘇生

	心肺蘇生	人工呼吸			胸骨圧迫			
対象	胸骨圧迫 :人工呼吸	送気量	送気 時間	送気 回数	圧迫位置	圧迫法	圧迫の 強　さ	テンポ
成人 （8 歳以上）	30 回：2 回	胸の上がり が見える 程度の量	約 1 秒	2 回	胸骨の 下半分	両手	4～5 cm	約 100 回/分
小児 （1 歳以上 8 歳未満）						両手 または 片手	胸の厚み の 1/3 まで圧迫	
乳児 （1 歳未満）					両乳頭を結ぶ 線より足側	2 指		

3. 【電源を確保する－発電機】

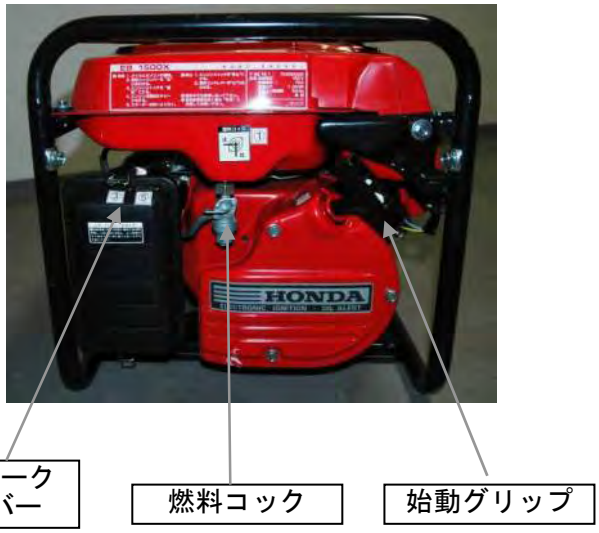
【発電機】

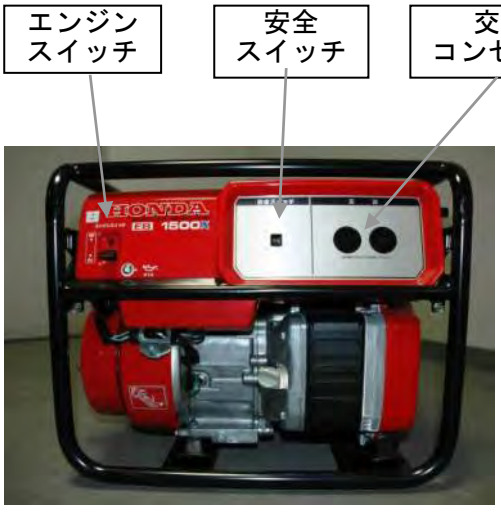
正式名称　　ポータブル発電機
使用目的　　災害時にバーナや投光器を使用するために発電する。
特　　徴　　燃料（ガソリン）を満タン（７リットル）にすると、７時間連続で使用可能

↑ 防災拠点倉庫に収められている発電機と燃料

《発電機の使い方》

◆各部の名称





発電機操作手順（かけ方）

1　燃料計を確認し、必要があれば給油する。

2　燃料コックを『出』の方へ 90 度回転させる。

3　エンジンスイッチを“運転”に合わせる。

4　エンジン冷間時はチョークレバーを“始動”の位置に合わせる。

５　始動グリップを引き重くなったところから勢いよく引く。

６　エンジン暖機後、チョークレバーを“運転”の位置に合わせる。

発電機操作手順（とめ方）

エンジンスイッチを“停止”に合わせる。

4. 【飲料水を確保する－受水槽】

【受水槽（水道緊急遮断弁つき）】

使用目的　災害時に、受水槽に設置された蛇口から直接飲料水を確保する。

特　　徴　１　緊急遮断弁が設置されているため、万一配管系の損傷を受けても水槽内の水はそのまま使用できる。

２　地震を感知して自動的に出水口を遮断するため、発災後もすぐに水を使うことが可能。

そ の 他　学校等に配備した受水槽は、災害時の飲料水の確保を目的として排水口が取り付けられている。

受水槽の鍵は防災センターに保管されている。

防災センターの鍵束

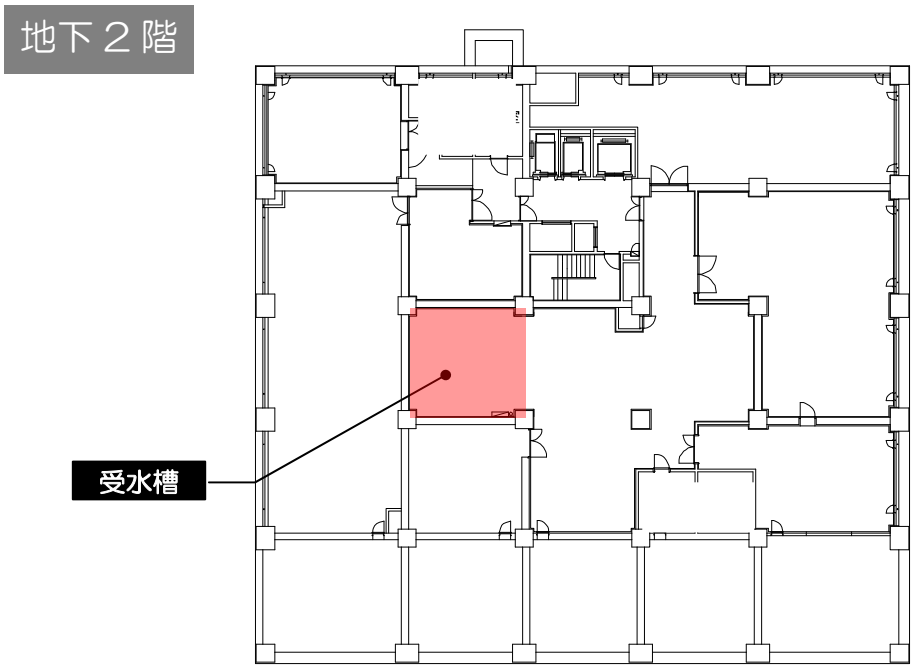
受水槽

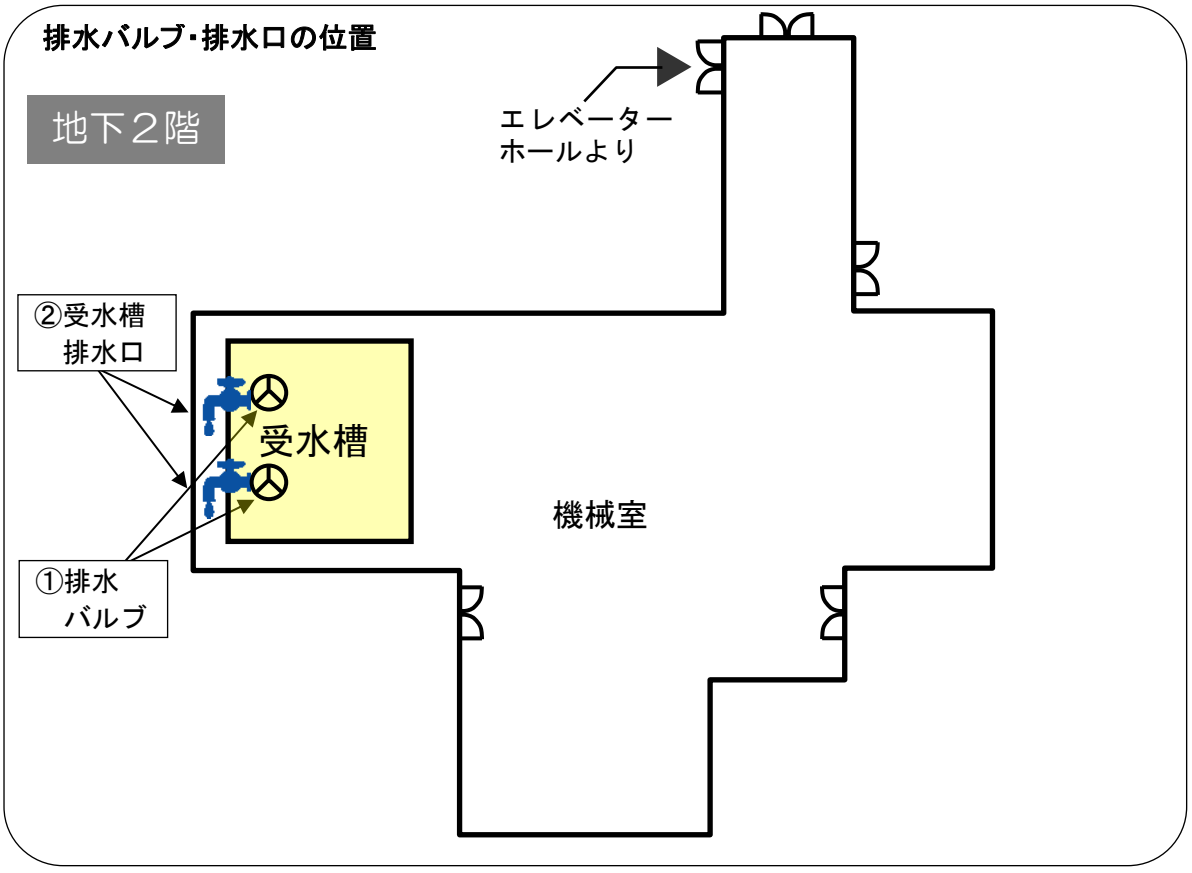
災害時の受水槽使用方法

１　タンク横の排水バルブを開ける。

２　蛇口（受水槽排水口）を開け、給水タンクに水を入れる。

受水槽設置場所


地下２階
受水槽


排水バルブ・排水口の位置
地下２階
エレベーター
ホールより
②受水槽
排水口
受水槽
機械室
①排水
バルブ

【組立式煮炊きレンジ】

【組立式煮炊きレンジ】

正式名称　　組立式煮炊きレンジ

使用目的
1　区の備蓄乾燥食料（サバイバルフーズ・アルファ米）を元に戻すためのお湯を沸かす
2　炊飯袋を使用してお米を炊く

特　　徴
1　１回に沸かせるお湯の量は５０リットル
2　１回につき炊飯袋１００袋（１食＝１袋）を２０分間で炊飯できる
※汁物なら３００人分を３０分間で調理可能
3　燃料（灯油）を満タン（１８リットル）にした状態で最大９００食分炊飯可能
※灯油１リットルで５０食分炊飯可能
4　燃料満タンで、３時間～６時間連続で稼動できる（火力により増減有り）

そ の 他
1　区と「東京都石油商業組合京橋支部・日本橋支部」との協定により、ガソリンスタンドから灯油の供給可能。
2　灯油が確保できないときは、木材などをレンジの下で直接燃やし、煮炊きをする。

炊飯時の注意

1　レンジを設置する地面には可燃物を置かぬこと。
2　使用中及び使用後の移動にあっては取手が加熱されているので直接手を触れぬこと。
3　レンジが完全に冷却してから箱に収納すること。

【各部の名称】

【炊き出し用コンパネ】

※組立式煮炊きレンジの下に敷いて使用する。

レンジの組立手順

1　水平な地面を選定し、レンジ部を箱より取り出す。レンジ部外側の貼マーク（組立順序１．２．３）が下になるように置く。

2　始めに「組立順序１」の貼マークのレンジ部を置く、次に「組立順序 2」の貼マークのレンジ部を持上げ「組立順序１」のレンジ部の右側のレールの間に差込み押下げる。

3　最後に「組立順序３」の貼マークの正面レンジ部を持上げ、両側のレンジ部のレールに合せて差込み、押下げて組立完了。

4　組立てたレンジの移動は両側の取手を起して持上げて行う。分解は組立の逆の手順で行う。

バーナの組立て方

1　赤色缶から油タンク（赤色）・給油管、工具箱から小容器（銀色）を取り出す。

2　油タンクの元栓を、90 度に横に曲げて閉める。

3　油タンクのキャップを開けて灯油を入れる。
※災害時は備蓄している灯油缶詰を使用する。

4　赤色缶の上に油タンクを重ねる。

油タンク（赤色）

赤色缶

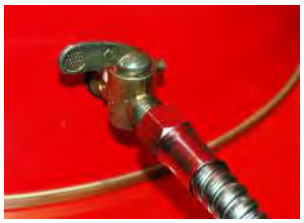
５　油タンクに給油管を、レンチを使って取り付ける。
※レンチは工具箱に入っている。

６　油タンクのキャップを緩めて、空気が入るようにする。

７　油タンクの元栓を、ホースと水平にして開ける。

８　給油管の他端を小容器（銀）に受け、しばらく灯油を流し、給油管中に灯油を満たす。

９　油タンクの元栓を、 90 度に横に曲げて閉める。



１０　バーナに給油管を、レンチを使って取り付ける。

１１　油タンクの元栓を、ホースと水平にして開ける。

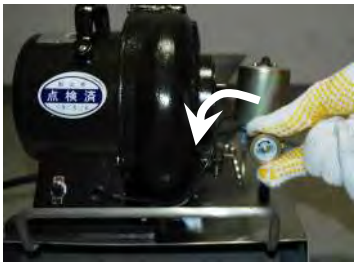
１２　バーナの電気コードを電源に差込み、送風機のスイッチを入れる。
※災害時は発電機につなげる。

１３　灯油を入れた小容器（銀）に点火棒を入れ、灯油を浸してから火を付ける。

１４　火のついた点火棒を内燃筒内側の底面に突っ込む。

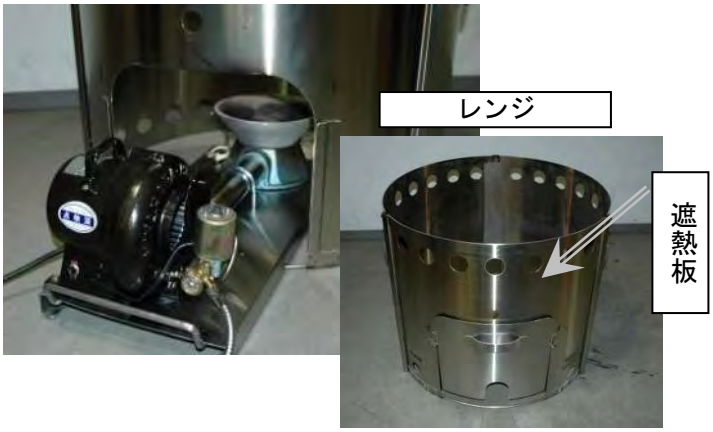
１５　電磁弁の押しボタンを押す。

１６　油バルブを左に半回転位開くと点火する。



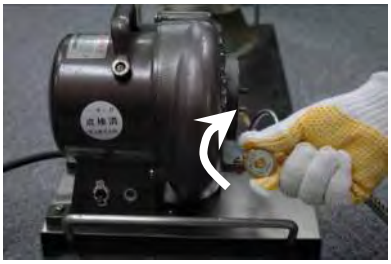
１７　点火後は送風機のダンパーを中程まで開く。その後は送風量と給油量を比例して増減し火力を調整する。

１８　煙が出ない程度に燃料を調節してから、バーナ台のストッパーがレンジ本体のレールに落ち込むまで押し込み、遮熱板を取付ける。



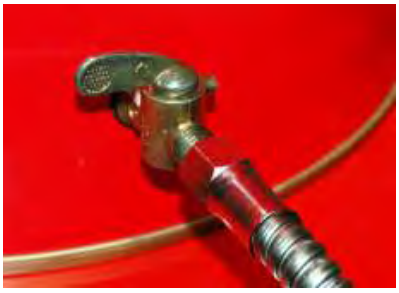
消火の仕方

１　油バルブを右に回して閉める。



２　送風機のスイッチを切る。

３　油タンクの元栓を、90 度に横に曲げて閉める。



【炊飯袋】

使用目的　炊飯袋、水、米、組立式煮炊きレンジを使い、米を炊く。
炊飯方法　炊飯袋にといでいない米（１合弱）と、米の２割増の水を入れる。といだ米の場合は同量の水を使用する。それを、組立式煮炊きレンジで沸かしたお湯の中に入れ、２０分間袋ごと煮て炊飯する。

炊飯袋の使用方法　〈詳細〉

１　準備するもの
炊飯袋、米、水

２　作り方

（１）炊飯袋に**「といでいない米１合弱」**と**「米の２割増の水」**を入れる。
といだ米の場合は同量の水を入れる。
※ 1 合 → 180 ミリリットル

（２）袋の余った部分を手でしぼり袋内の空気を抜く。**袋内に空気が残っていると煮た時に膨張するので注意**する。**（右図参照）**

（３）袋内の空気を抜いたまま折り曲げてしっかりと結ぶ。**（右図参照）**

（４）水を煮立てた鍋に袋をそのまま入れ、**約２０分間**袋ごと煮る。
煮立てる水は飲用に適さない水でも可能。

（５）煮た後、鍋から取り出し**５分程蒸らす**と出来上がる。蒸らすときは熱を逃がさないように容器（ダンボール箱など）に入れる。

7.【トイレを作る－簡易トイレ（既設洋式トイレ）】

【簡易トイレ（既設洋式トイレ）】

正式名称　　サニタクリーン
使用方法　　洋式トイレの便器や簡易組立式トイレに取り付けることができる。
特　　徴　　高速吸水凝固シートにより、臭いが少なく衛生的。焼却処理できる。

高速吸水凝固シート内蔵簡易トイレ（サニタクリーン）

梱外状態
（表面）

梱包内容

便　袋
受けネット

便袋

設置手順

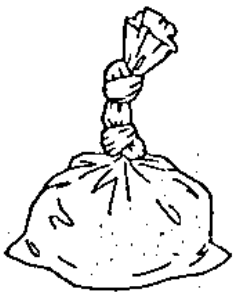
1　便袋受けネットをセットする。（繰り返して使用する。）

2　便袋を取り付ける。

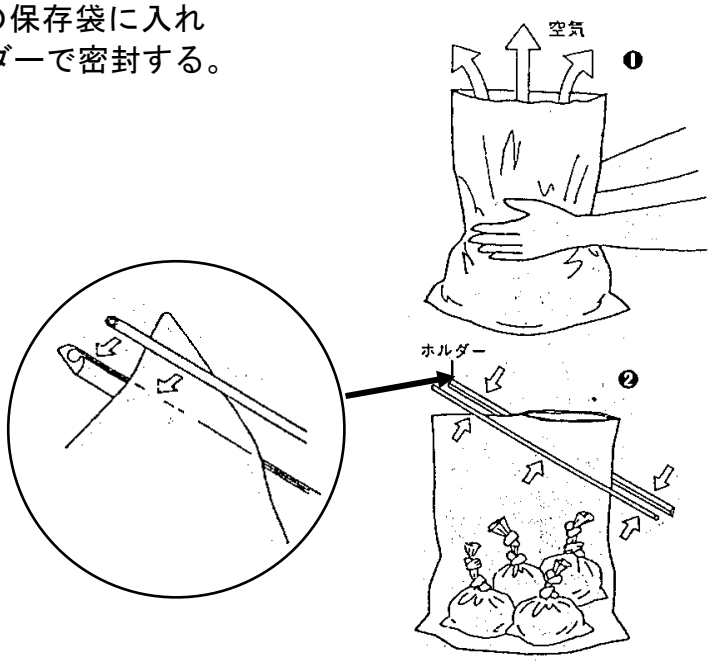
3　使用後の便袋は、袋の口を結び持ち運べるようにし、可燃ごみとして処理する。

使用済便袋の収納

1　使用済の便袋をトイレからはずし、便が入っていない部分から空気を追い出すようにしてから２、３回、しっかりしばる。(**右図参照**)



2　固くしばった便袋を銀色の保存袋に入れること。保存袋の口はホルダーで密封する。**（右図参照）**



●あと始末

災害復旧の過程でトイレが使えるようになったら、水で流しながら、**し尿のみをトイレに流す**。
残った空の袋類は、まとめて密封（袋の空気を抜き忘れずに）して、**一般ゴミとして**出す。
便袋には炭酸カルシウムが含まれている。

●し尿は絶対に他のゴミと一緒に放置するような事はしないこと。

9.【トイレを作るーマンホールの開け方】

手順

1　トイレ用マンホールの開け方

①マンホール開閉工具をマンホールにある差し入れ口に差し入れる。

※マンホール開閉工具は地下１階防災拠点倉庫に保管しています。

②マンホール開閉工具のハンドルを回し、マンホール開閉工具を引き上げる。

③マンホールの蓋をはずす。

④トイレ使用後は、吸上用のマンホールから吸上車により処理を行う。

2　吸上用マンホールの開け方

①マンホールの差し入れ口右側にある鍵穴を回し、ロックをはずす。

②マンホール開閉工具のハンドルを回し、マンホール開閉工具を引き上げる。

③マンホールの蓋をはずす。

※　吸上用マンホールは、道路側に近い、トイレ用より大きいマンホールです。

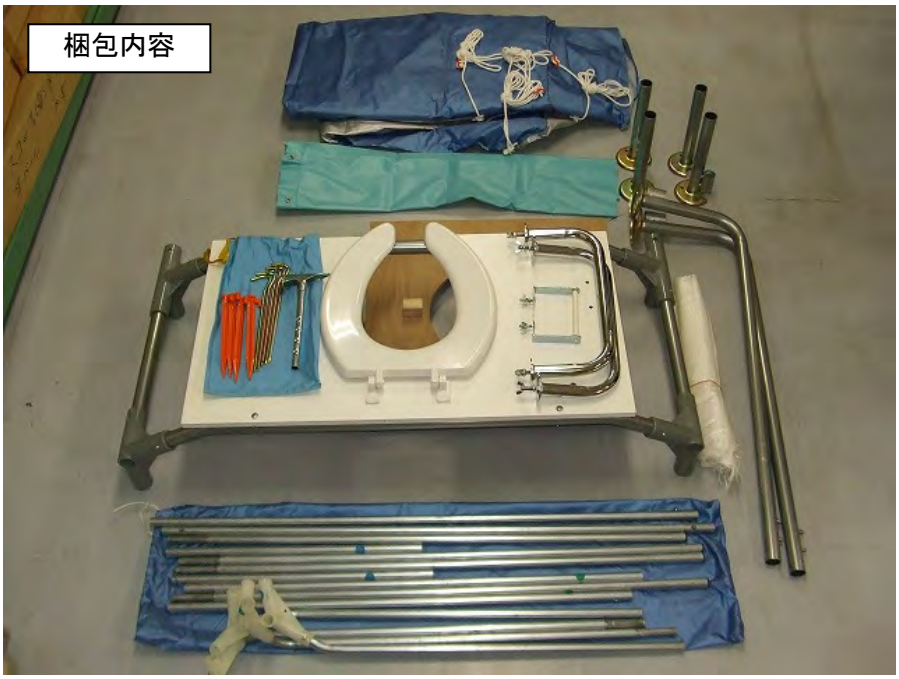
10.【トイレを作る－災害用マンホールトイレ】

【地下タンク用トイレ】

正式名称　　マンホール対応型トイレ（テント型）

使用方法　　地下タンク式トイレ用マンホールの上に設置し、使用後は吸上車を利用して汚物を回収する。

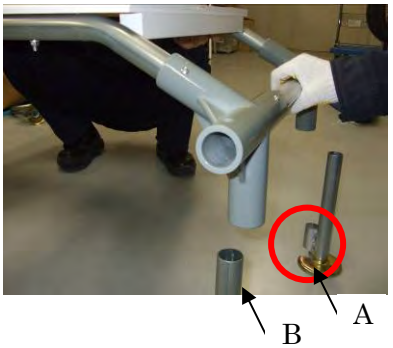
災害用マンホールトイレ



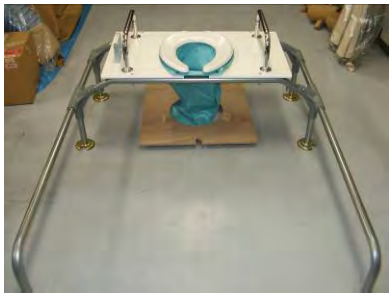
組み立て手順

1　台座の組み立て

①台座の後方にA、前方にBを差し込み、次にガードパイプを接続する。



②便座板に手すりとペーパーホルダーを蝶ねじで固定し、誘導布を便座板にホックで留める。マンホールの蓋を開け、板蓋をし、誘導布の先端をマンホールに差し込む。



２　テントの組み立て

①屋根パイプに軒パイプを接続する。

②シールの色合わせをして、屋根フレームに脚パイプを接続する。

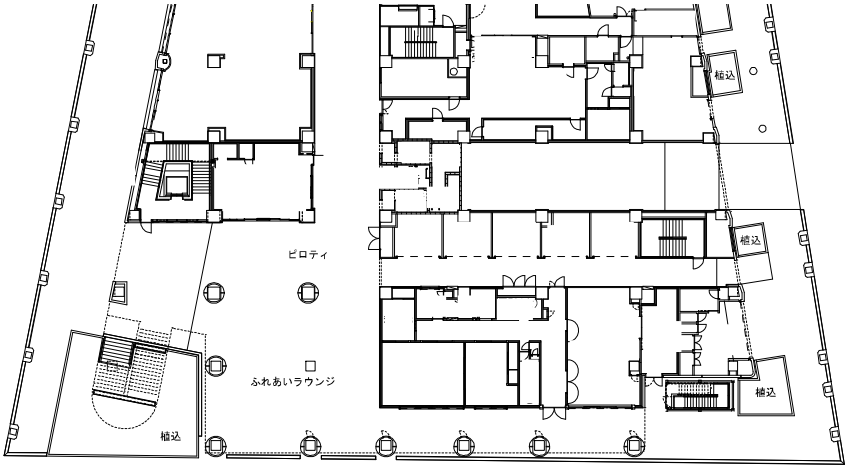
③幕体を拡げ、骨格に後ろからかぶせる。
（看板差込用フィルムが付いているほうが前）

④カーテンについているフックを軒パイプに掛け、カーテンを吊り上げる。

⑤テントの脚を持ち、台座骨格のテント受けに裾を差し込んで、台座にテントを接続する。

災害用マンホールトイレ設置場所

１階



マンホール
トイレ
（京橋公園内）

地下タンク式トイレ
用マンホール

11.【生活用水を確保する－防災用井戸】

【防災用井戸】

正式名称　　防災用井戸
使用目的　　**飲料水にはできないが、トイレ等に活用できる。**
特　　徴　　１　手動式のため、電源や燃料が不用
　　２　取扱いが簡単

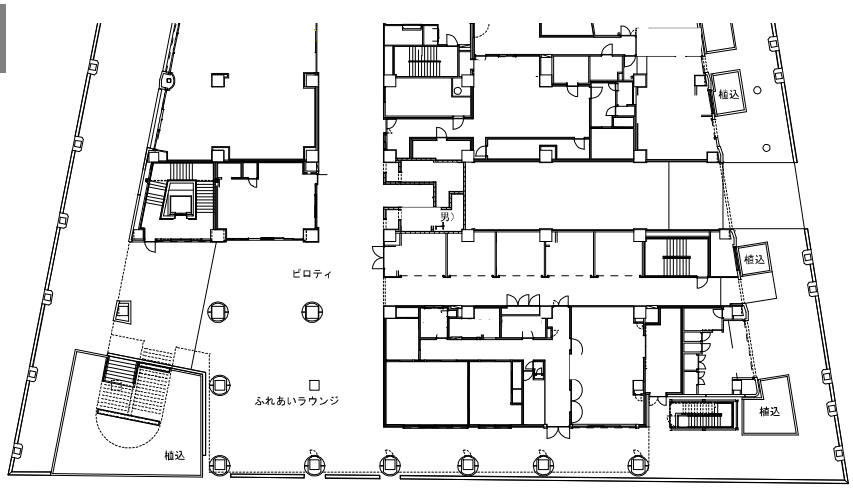
※　ポンプハンドルは防災拠点倉庫に保管されている。

防災用井戸取扱説明書

１　防災用井戸は、コミュニティルーム（洋室）前の屋外にある。
ポンプハンドルを入れ、上下に動かすと放水口より
水が出る。

防災用井戸
※生活用水（飲料不可）

１階



防災用井戸の位置

12.【情報を伝達する－地域防災無線】

【地域防災無線】

●地域防災無線の概要

地震発生直後、**固定電話及び携帯電話**は混雑又は断線により、つながらない又はつながりにくい状態になると想定されている。

そこで、区との通信手段を確保し、情報収集をするため、各防災拠点、消防署、警察署、医師会、医療機関、ライフライン関係事業者に地域防災無線を設置している。

無線機は、停電時も使用可能。防災拠点に設置してあるものは、**おおむね２０時間**バッテリーにより使用することができる（その他に携帯局用のバッテリーによりおおむね２０時間使用することができる）。

●中央区の地域防災無線の特徴

従来の個別通信・グループ通信･一斉通信に加え、庁舎内の電話交換機に接続された内線電話との通信やメール機能の使用が可能となった。

●通話時の注意点

※通信前には、電源を確認する。アンテナマークで電波状況を確認する。通信モードを確認する。

※通常の通信（個別通信）は一般電話と同じように通話が可能。**６分間で自動的に切れる**ので、注意すること。

地域防災無線の使い方

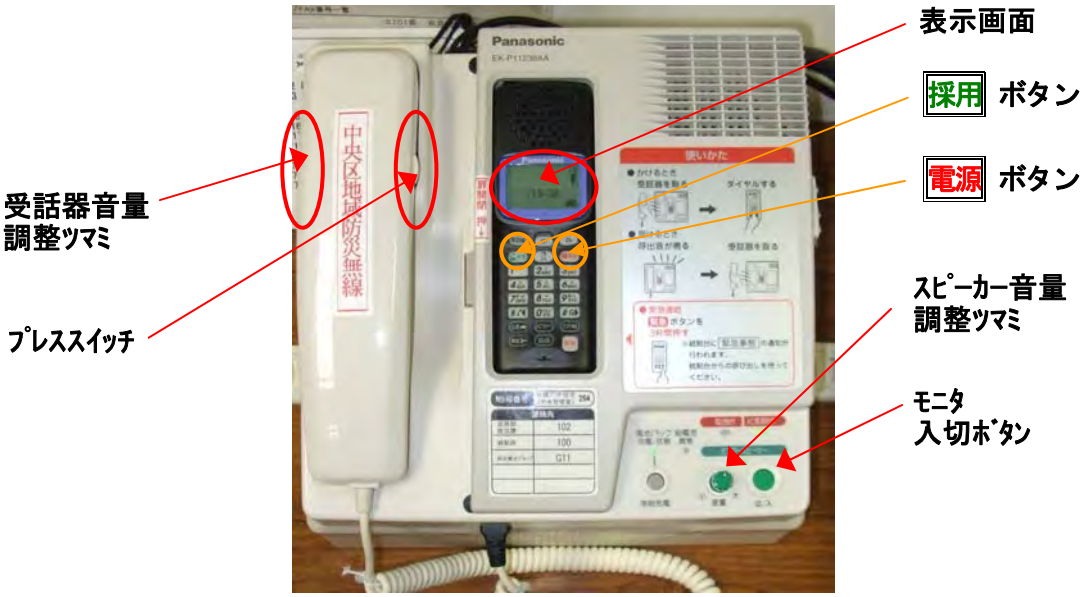
通話をする

1　受話器を取る
2　相手番号を入力し
　【個別に呼出す場合】：テンキーで**数字3桁の相手番号**を入力
　　［区災害対策本部（教育委員会）の番号］ 7 0 1 を押す。
　【グループで呼出す場合】：**「＃」＋数字2桁のグループ番号**を入力
　【内線番号を呼出す場合】：**「＊」＋内線電話番号**を入力
3　採用　ボタンを押す
4　通話をする
　※　通常時は６分間の連続通話で自動的に切れます
5　受話器を戻して通話を終了する

《注意点》
　個別通信の場合：　複信通信（一般電話と同じように話すことができる）
　グループ通信の場合：話す際はプレススイッチを押しながら話す

通話を受ける

1　通信種別毎の呼出音が鳴る
　【個別に呼出された場合】：　♪プルプルプル…
　【グループで呼出された場合】：　♪ピピッ…
　【交換機経由（内線電話）で呼出された場合】：♪プルプルプル…
2　採用　ボタンを押して通話を始める
3　通話をする
4　電源　ボタンを押して通話を終了する



※一斉通報を受けた場合

① 呼出音が鳴り、統制台より一斉通報が入る「こちらは統制台です・・・」
② 表示画面に【内容確認ＯＫ　＊－Ｙｅｓ／＃－Ｎｏ】と表示される
③ 通話内容が確認できた場合→[＊]　通話内容が確認できない場合 →[#]
をそれぞれ押す

※緊急通報

① [緊急]　ボタンを２秒以上押す
② 緊急連絡が統制台に受け付けられると表示画面に【受付完了】と表示される
③ 統制台からの統制通信連絡を待つ